

I spent some time thinking about this, and there are times as an American you have to wonder "is anything being held together?"

これについては僕もしばらく考えたんですが、時に、アメリカ人としては「いったいひとつになっているものなんてあるのか？」と考えざるを得ないんですよ。

There are times (as ~ ) [when] you have to wonder "...?"

(~として) "...?" と疑問に思わざるを得ないときがある

**パターン構文** 決まった言い回しです。ここでの have to ... は「...せざるを得ない」のニュアンスです

to hold something together (ばらばらにならないように) ひとつに保つ

**やまと言葉** to hold は「持って、その状態を保ったり、支えたりしている状態」です。together は「ばらばらでなく、一体でまとまった状態」です。合わせて、「ひとつにまとめられている、保持されている状態」ですね。

because some of the issues that we deal with are so divisive.

というのも、僕たちがかかえる問題のいくつかは、本当に妥協点のないものなんです。

some of the issues that we deal with 私たちがかかえる問題のいくつか

**パターン表現** ネイティブはこれでひとかたまり！の感覚です。まず慣れておきたいのは、some of the issues に見られる、英語の「数(単数/複数)の概念」です。日本語だと「複数あるうちのいくつか」とわざわざ言わないことが多いのですが、英語では非常によく出てくるパターンです。some of the ..., one of the ... など、よく使われるかたちゆえに、音も速くサッと一息で言われてしまうので、聞き取りで苦労させられる表現でもあります。英語の「数の概念」を味わいながら、音・リズムごと馴染んでしまいましょう。また、もうひとつ慣れておくとよい点は、「名詞 + 修飾節で詳しい情報！」でひとかたまりの感覚です。the issue のように、シンプルな名詞がきたら、多くの場合、後ろから「どういう問題なのか」を説明してくれる情報が節で足されてきます。聞き取りのときは、常にその覚悟を持って聞き、the issues と聞こえてきたら、「で、どんな問題？」と後ろの詳しい情報を待ち、「名詞 + 詳しい情報」でひとかたまり！の感覚で理解できることを目指しましょう。

to deal with... ...に対応する

**やまと言葉** to deal with... で、「...と関わり合いを持つ」というのがコアの意味です。そこから、コンテキストによって、「...に対応する」、「...を扱う」、「...と取引をする」などの意味になります。ここでは「アメリカが関わっている問題」ということですから、「かかえる」問題といった感覚です。

divisive (意見や立場などが分かれてしまって) 妥協点がない

**やまと言葉** 「(人々を)二分するような」、「不和を招くような」のような意味です。

A good example right now is the war in Iraq. It's largely supported. I think it's 70 percent, 65 to 70 percent in support of the war and the other 30 percent not in support and there is no middle ground whatsoever.

現在のいい例がイラクでの戦争です。概して、支持されてて、たしか、70パーセント...65%から70%が戦争支持で、残りの30%が不支持なんですね。それで妥協点というものが全くないんですよ。

A good example right now is... 現在のよい例は ...

**ロジック** これの前の部分は because... の「旗印」表現によって、「理由」で説得してくれるサポートが来ていましたね。A good example (right now) is... と聞こえてきたところで、「あ、今度は具体例でサポートしてくれるぞ...」と、種類の違うサポートがきたことにしっかりと納得しながら聞き取れる感覚を目指しましょう。

largely... 概して...、だいたいにおいて

**やまと言葉** これは、「ものすごく」といったニュアンスではありません。「割合として大きい」といった意味から、「だいたいにおいて」「ほとんどにおいて」「概して」「おおむね」といったニュアンスになります。

be in support of ... ~に賛成している、~を支持している

**慣用表現** in + 名詞 で「~の状態」を表す表現のよい例です。ここでは support(支持、賛成)に in がつくことで「支持している状態、賛成している状態」という意味になります。

同じように in+名詞で「~の状態」の意味合いで、よく出てくるものとしては以下があります。

We are in agreement on that point. (その点については、私達は同意しています)

We are in sync with each other. (僕たち、意見が、息がお互いにぴったり合ってるんだ)

He's in denial about the failed project. (彼はプロジェクトの失敗を受け入れられずにいる)

middle ground 合意点、妥協点

**慣用表現** 意見の異なるグループの間で歩み寄って折り合いをつけられる「合意点」、「妥協点」などの意味です。

whatsoever いかなるものも

**文法** 否定形と一緒に使われて、「どんなものも、一切」という意味になる強意表現です。

So, that's maybe an example of why I wonder how in the world people would view America as together.

ですから、それがおそらく、いったいぜんたいなぜ世界の人々はアメリカはひとつだなどとするのか、僕が不思議に思う理由のよい例だと思います。

That's ... で、それが...

**パターン構文** that で前に述べたことを受けて、「で、それって~なんです」と前で述べたことの意味合いなどをもう一度強調する言い方がよくされます。That が指しているものをしっかりと押さえて聞き取ることがポイントです。

(how) in the world いったいぜんたい(どうして)

**慣用表現** in the world が what, how, why などの疑問詞とセットで使われた場合、その疑問詞の意味を強調するニュアンスが加わります。他にも、疑問詞を強調する似たような言い方で、(what) on earth ... などがあります。いずれの表現も、口語的な言い方です。